

ブル朝日新聞

ブル朝日新聞社
本紙創刊は明治二十九年
外埠郵費共計六十ル



レコードは「コロムビア時代」

バルカンの地軸爆發

失地回復の前奏譜！

ハンガリー遂に参戦

ユーゴ領内に進駐を開始



【ブダペスト二十日ロイター電】ハンガリーは、ユーゴスラビア領内に進駐を開始し、失地回復の前奏譜を奏した。ハンガリー軍は、ユーゴスラビア領内に進駐を開始し、失地回復の前奏譜を奏した。ハンガリー軍は、ユーゴスラビア領内に進駐を開始し、失地回復の前奏譜を奏した。

クロアチア独立宣言

悲壯、ユーゴ崩壊に瀕す

国内全く蜂の巣 民心恟々、無政府状態

【ツリノーワ二十日ロイター電】クロアチアは、ユーゴスラビアからの独立を宣言した。クロアチアは、ユーゴスラビアからの独立を宣言した。クロアチアは、ユーゴスラビアからの独立を宣言した。クロアチアは、ユーゴスラビアからの独立を宣言した。

内外問題を組上に

政府の決意を披露

近衛首相、記者團と一問一答

【東京二十日ロイター電】近衛首相は、記者団と一問一答を行った。近衛首相は、記者団と一問一答を行った。近衛首相は、記者団と一問一答を行った。近衛首相は、記者団と一問一答を行った。

援英今や焦眉の急

抑留船購入の意圖



ベルギー大統領は十日議院に演説した。大統領は、三月十七日議院に演説した。大統領は、三月十七日議院に演説した。

【ワシントン二十日ロイター電】米大統領は、抑留船購入の意圖を示した。米大統領は、抑留船購入の意圖を示した。米大統領は、抑留船購入の意圖を示した。米大統領は、抑留船購入の意圖を示した。

戦車部隊を先頭に

獨軍三方から包圍

希臘戦野に英軍必滅か



【アテネ二十日ロイター電】希臘戦野に英軍必滅か。希臘戦野に英軍必滅か。希臘戦野に英軍必滅か。希臘戦野に英軍必滅か。

【アテネ二十日ロイター電】希臘戦野に英軍必滅か。希臘戦野に英軍必滅か。希臘戦野に英軍必滅か。希臘戦野に英軍必滅か。

紅海、アデン灣を

交戦水域から除外

米大統領報告に署名

【ワシントン二十日ロイター電】米大統領は、紅海とアデン灣を交戦水域から除外する報告に署名した。米大統領は、紅海とアデン灣を交戦水域から除外する報告に署名した。

國王自ら陣頭に

ユーゴ軍必死の抵抗

獨伊の連絡成る

【ロンドン二十日ロイター電】國王は、ユーゴスラビア軍の陣頭に立ち、ユーゴ軍の必死の抵抗を支援した。國王は、ユーゴスラビア軍の陣頭に立ち、ユーゴ軍の必死の抵抗を支援した。

英國未曾有の危機

米紙全く悲觀的論調

トルコの動向握る

【ロンドン二十日ロイター電】英國は、未曾有の危機に瀕している。米紙は、英國の危機について悲觀的論調を示している。英國は、未曾有の危機に瀕している。

盟約を裏切るユ國

考慮の餘地なし

【ワシントン二十日ロイター電】米大統領は、ユゴスラビアが盟約を裏切ったと宣言した。米大統領は、ユゴスラビアが盟約を裏切ったと宣言した。米大統領は、ユゴスラビアが盟約を裏切ったと宣言した。

聖金曜は休業

餘裕種々獨の國情

蘇ユ條約の

【ワシントン二十日ロイター電】米大統領は、聖金曜日を休業するよう指示した。米大統領は、聖金曜日を休業するよう指示した。米大統領は、聖金曜日を休業するよう指示した。

松岡、モロトフ

第三次會談を續行

避難を勸告

【ワシントン二十日ロイター電】松岡洋右とモロトフは、第三次會談を續行している。松岡洋右とモロトフは、第三次會談を續行している。松岡洋右とモロトフは、第三次會談を續行している。

避難を勸告

國內に戒嚴令

厳正中立

【ワシントン二十日ロイター電】米大統領は、避難を勸告し、國內に戒嚴令を出した。米大統領は、避難を勸告し、國內に戒嚴令を出した。米大統領は、避難を勸告し、國內に戒嚴令を出した。

製鐵會社創立總會 證券取引所で舉行

ギンレ熱熱振ふ

【二十日】製鐵會社創立總會は、九日、証券取引所貴賓室において盛大に行はれた。午後四時、製鐵會社創立總會の役員は、証券取引所貴賓室に集り、創立總會の組織、役員、業務の進捗等について話し合った。出席者は、会長、副会長、役員、各代表者等、約五十名に達した。創立總會の組織は、会長、副会長、役員、各代表者等、約五十名に達した。創立總會の組織は、会長、副会長、役員、各代表者等、約五十名に達した。

タウパター事件 近く圓滿解決か

獨政府、抗議に回答

【二十日】新聞記者協会は、右側はタウパター事件に、外務省は昨日、ドイツ大使館に抗議の書状を送った。この抗議の書状は、ドイツ政府の抗議に回答するものである。ドイツ政府の抗議は、タウパター事件の解決を急ぐべきであるとの主張に基づいて行われた。外務省は、この抗議に回答し、事件の解決を急ぐべきであるとの主張を述べた。

メキシコ政府 樞軸國船収用か

あす政府首脳重要協議

【二十日】メキシコ政府は、樞軸國船の収用に、あす政府首脳重要協議を行う。この協議は、メキシコ政府と樞軸國との間で進められている。協議の目的は、樞軸國船の収用に関する問題を解決することである。メキシコ政府は、この協議を通じて、樞軸國船の収用に関する問題を解決することを望んでいる。

汎米珈琲協定 すでに十ヶ國が承認

アメリカは承認か

【二十日】汎米珈琲協定は、すでに十ヶ國が承認した。この協定は、アメリカ、ブラジル、コロンビア、ベネズエラ、キューバ、エクアドル、ペルー、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイの十ヶ國が承認した。協定の目的は、汎米地域の珈琲生産者の利益を保護することである。アメリカは、この協定を承認するかどうかを決定している。

ペイシヨット執政官 フォード翁と會見か

自動車工場新設の打ち合せ

【二十日】ペイシヨット執政官は、フォード翁と會見した。この會見は、自動車工場の新設に関する打ち合せが行われた。執政官は、フォード翁から、自動車工場の新設に関する詳細な説明を受けた。執政官は、この説明を踏まえ、工場の新設に関する打ち合せを行った。

有望な東南歐市場 伯國珈琲の新販路

經濟擁護委員會新總裁の言

【二十日】伯國珈琲の新販路として有望な東南歐市場を開拓する。經濟擁護委員會の新總裁は、この市場を開拓する重要性を述べた。總裁は、東南欧市場は、伯國珈琲の需要が急激に伸びていると指摘した。總裁は、この市場を開拓することで、伯國珈琲の生産者の利益を保護する必要があると述べた。

自動計算器 取付け義務

七月まで延期

【二十日】自動計算器の取付け義務は、七月まで延期された。この延期は、自動計算器の普及が進んでいないためである。政府は、自動計算器の取付け義務を七月まで延期することで、普及を促進するとしている。

ボリビアブラジル 國際電話遂に開通

明日晴れの開通式を舉行

【二十日】ボリビアとブラジルの國際電話は、遂に開通した。開通式は、明日晴れの日に舉行される。この開通は、ボリビアとブラジルの交通を促進するに役立つと期待されている。

航空學校 入學願書

廿日まで受付

【二十日】航空學校の入學願書は、廿日まで受付されている。この願書は、航空學校に入學希望する者から提出される。願書の受付は、廿日まで行われる。

ドクレー總督 暗殺陰謀

危機一髪で発見

【二十日】ドクレー總督の暗殺陰謀は、危機一髪で発見された。この陰謀は、ドクレー總督の暗殺を企てる者によって行われた。陰謀は、ドクレー總督の暗殺を企てる者によって行われた。陰謀は、ドクレー總督の暗殺を企てる者によって行われた。

英サイゴンで 佛船を拿捕

東洋船を拿捕

【二十日】英サイゴンで佛船が拿捕された。この船は、東洋船を拿捕した。この拿捕は、英サイゴンで行われた。

市況

大豆	10000
小麦	10000
米	10000
糖	10000
油	10000

小貸問

梅毒妙薬
Nogueira
Elixir Grande de Sanguo

PHOTO-MAURO

高級寫眞館
日本人の友
C. Postal, 353
P. Prudente

Restauranto Caverna Paulista

R. Libero Badur, 29
Tel. 2-5078 - S. Paulo

PRO-PECUARIA INDUSTRIA DE FORRAGENS EQUILIBRADAS LTD

養鶏家諸君!!!

ヒヨコの成長、發育を早くし、しかも強健で産卵期間を永く
年三百五十以上の産卵記録を作りた方は是非

濃化調合飼糧 プロ・ペクア-リア

をお與へ下さい

鶏を強健ならしめ産卵期間を延長させるには	ヒヨコの成長を保證し發育を早めるには
ポエテイラ印 類蛋白質 24.0% 脂肪質 5.1%	ビンタイニヨ印 類蛋白質 16.0% 脂肪質 3.9%

◇牛の飼糧量	◇仔牛の飼糧量
ラクチゼーナ印 類蛋白質 27.0% 脂肪質 6.9%	テルネイロ印 類蛋白質 26.0% 脂肪質 6.5%
◇豚の飼糧量	◇馬、驢馬の飼糧量
グラソゼーナ印 類蛋白質 26.4% 脂肪質 7.0%	エキーナ印 類蛋白質 14.0% 脂肪質 3.5%

濃化し適度に調合した飼糧プロ・ペクア-リアは滋養に富み消化し易い類蛋白質を多量に含んで居り、それぞれ各動物に適應する様科學的に調製されたものです。尚プロ・ペクア-リアを連續的に毎日使用中といへども植付てあるカビン其他の秣を與へても差支ありません。

FABRICANTES: - "PRO-PECUARIA" - INDUSTRIA DE FORRAGENS EQUILIBRADAS LTD.
SÃO PAULO - Largo do Ouvidor, 4
FABRICA: - Agua Branca
DEPOSITARIOS: - THEODOR WILLE & CIA. LTDA.
REPRESENTANTES: - "BRAZIJAPA" LTDA.
日本人一手販賣所 日伯社

Dr. H. FENICIO

Av. S. João, 536-6 and. - Tel. 4-1188

淋病

如何なる淋病
も五日で完全
治癒
北米式
(洗濯注射
を用いず)
廉價

カマムラ

日本人曲藝師
場所
"WUNDER BAR"
DANCING - CABARET
Avenida S. João, 614
午後十時より午前四時まで

急募

少年(十四歳より)數名
日伯社

皮細工

日本土産に好適
弓場井製造所
Rua Major Diogo, 55 - São Paulo

電氣器具一式

修理 取付け
安値 高質
野原部 (産中) (十二日)

Casa Vermelha

R. Quintino Bocayuva, 18
Tel. 2-4698 - S. Paulo

紳士淑子女子供向

最新型靴

最當に取揃へて居ります
是非日本人の皆様の御來
店をお待ち致します

ESCOLA TÉCNICA DE COMÉRCIO DE S. PAULO

Rua 11 de Agosto, 138
Junto à Praça da Sé

校開年正	科目教授
指技通算 會計法	簿記 簿記
簿記 簿記	簿記 簿記

諸役所へ提出の書類、謄本等の手數、紛失等を避ける爲に常備の新式ドイツ製「レク」トフォット機を御利用下さい。

下の寫書に 證明書、特許證書、書翰、卒業證書、貸借書、株券、肩書、地圖、法式書、領收書、願書、銀行手形、送狀、書籍ノ記事、其他 應じます。

兒島寫眞館

Largo do Theozouro, 21-3 - Tel. 2-7587

モダンクリーム

迅速 正確

兒島寫眞館

Largo do Theozouro, 21-3 - Tel. 2-7587

肉無しデーの街を歩くの記

一日一万キロをへろり！
我がもの顔の魚族ども
玉子、家禽類もどつと進軍

タンサ・ナマセ
肉無しデーの街を歩くの記
玉子、家禽類もどつと進軍

伯國に移す西陣技術
西陣織ネクタイ製造の一家が
あらびや丸で來伯

大統領襲撃の
統一黨殘黨
ベロ・オリゾンテで捕はる

心霊術ご法度！
警察から嚴重取締り
北巴拉ナ、バンデイレラントス

球兒精進の姿！
ア・マツシヤード
支部對抗野球大會

買はれた邦人の腕！
三分の二法も特に免除
桶屋だけは眞似できぬ

？がいは話なんこ
ヤイダの大最界世
後其の「傾統大スガルアツ」

譚生更品澤替
伯國に移す西陣技術
西陣織ネクタイ製造の一家が

大統領襲撃の
統一黨殘黨
ベロ・オリゾンテで捕はる

心霊術ご法度！
警察から嚴重取締り
北巴拉ナ、バンデイレラントス

球兒精進の姿！
ア・マツシヤード
支部對抗野球大會

買はれた邦人の腕！
三分の二法も特に免除
桶屋だけは眞似できぬ



伯國に移す西陣技術の一家のメンバー

伯國に移す西陣技術
西陣織ネクタイ製造の一家が
あらびや丸で來伯

大統領襲撃の
統一黨殘黨
ベロ・オリゾンテで捕はる

心霊術ご法度！
警察から嚴重取締り
北巴拉ナ、バンデイレラントス

球兒精進の姿！
ア・マツシヤード
支部對抗野球大會

買はれた邦人の腕！
三分の二法も特に免除
桶屋だけは眞似できぬ



サントス市ウイラ・マナス小學校十周年記念日の催し

太陽の子
開校十周年記念日の催し
よろこびに沸くサントス小學校

伯語小學校を建設
北巴拉ナ、厚生植民地在住者の熱意

汎チエテ
剣道大會
來月十一日開く

告
代表者會御通知
期日 來る五月四日(日曜日)午後二時より

DIANA
レストラン・喫茶室・パル・ロッセ

PAN AMERICANO
Rua Xavier de Toledo, 47 e 51

ACADEMIA PAULISTA DE DANÇAS
R. Brigadeiro Tobias, 509-sob. S. P.

BELLELLI, GOTTLIEB & CIA. LTDA.
Rua José Bonifácio, 204

産婆 中本あきみ
日聖市醫科大學附産科卒業

R. Kröninger
54, R. Xavier de Toledo, 54

愉快に暮すには
熊本縣人 森本實之義

汎チエテ
剣道大會
來月十一日開く

告
代表者會御通知
期日 來る五月四日(日曜日)午後二時より

告
代表者會御通知
期日 來る五月四日(日曜日)午後二時より

迫る南米陸上大会

三連覇を目指し 伯軍征途に就く

堂々五十名の大選手團



来る二十 六日より 六日間に 亘つて

南米陸上大会に對しては三十七年、三十九年と連覇を遂げて居る...

記録は低調

亞國の強選會

第十二回南米大會開演地たる...

州水上選手権大會

十九日より三日間開く

長距離のイバラ選手は豫選會...

ベア兄弟躍進

戦火の影響で歐洲勢を消す

振り舞はれたウエルト...

少年オリンピック大會

ピツク大會

セルモニイ俱樂部主催...

世界拳闘順位

毎二ヶ月で發表

各階級の順位は...

海外ユニオン

シユメリン

さきの世界拳闘王マックス...

全米室内陸上

シユメリン

十三回全米室内陸上競技選手...

PATRIMONIO IRACEMA VENDAS DE TERRA

Registrado sob No. 18 - De acordo com o decreto-lei Federal No. 58... Prolongamento da Alta Paulista

Advertisement for Iracema land sales. Includes a map of the area, text describing the location and benefits of the land, and contact information for the sales agent.

Advertisement for Iracema city land sales. Includes text describing the city's development and land availability, and contact information for the sales agent.

A HUNGRIA ENTRA TAMBÉM NA GUERRA

O primeiro comunicado magiar — Movimento de tropas húngaras — Chocam-se alemães e ingleses na Grécia — O Rei Pedro no exército — Atingida pelos alemães a segunda linha de defesa grega — Uma "segunda edição de Dunkerke" — Avanço italiano — Os alemães e italianos estabeleceram contacto — Os ingleses preparados para qualquer retirada estratégica — A situação interna da Jugoslávia — Pressão inglesa sobre o Egito — A evacuação de Ankara — Outros telegs.

O PRIMEIRO COMUNICADO DE GUERRA MAGIAR

BUDAPEST, 12 (T. O.) — O primeiro boletim de guerra húngaro foi publicado na noite de sexta-feira; traz o seguinte:

"Durante a jornada de 11 de Abril as nossas tropas alcançaram objetivos prefixados contra o inimigo que nos apresentou intensa resistência nas suas posições fortificadas".

MOVIMENTO DE TROPAS HUNGARAS — O COMUNICADO DO GOVERNO DE BUDAPEST

BUDAPEST, 10 (D.) — O regente da Hungria ordenou o avanço de suas tropas ao seu antigo território. Ao mesmo tempo divulgou uma declaração comunicando ao povo húngaro desse território o motivo de tal movimento de tropas, nos seguintes termos:

"O ato do governo húngaro de enviar tropas ao território cedido à Jugoslávia pela Turquia em 1918, onde residem muitos súditos húngaros, é para os proteger de um regime sem governo. A presente medida não tem intenção ofensiva aos sérvios. A Hungria deseja viver sempre em cooperação pacífica com os sérvios".

OS DIPLOMATAS ALIADOS DEIXAM BUDAPEST

ZURICH, 12 (U. P.) — A rádio emissora de Budapest anunciou que os diplomatas britânicos, belgas e holandeses partiram de Budapest, com rumo à Mascou num trem especial às 12.30 de ontem.

Por sua vez, a emissora alemã informou que os referidos diplomatas alimentam o propósito de dirigir-se para a Inglaterra, pelo itinerário da Índia.

A HUNGRIA RECONHECE A INDEPENDÊNCIA DA CROACIA

BUDAPEST, 12 (T. O.) — Nos circuitos bem informados desta capital anuncia-se que a Hungria estaria disposta a reconhecer imediatamente o estado independente da Croácia. O consulado húngaro em Agram seria elevado à categoria de Legação.

CHOCAM-SE ALEMÃES E INGLESES

ANKARA, 12 (T. O.) — Consciente notícias oriundas de Atenas, o boletim de guerra helênico, de sexta-feira à noite, faz referência a encontro entre tropas alemãs e britânicas, na região de Florina. Segundo parece, as tropas germanicas procedem de Monastir. A localidade de Florina acha-se situada entre o triangulo formado pelas fronteiras jugoslava, albanesa e grega.

O REI PEDRO INCORPOROU-SE AO EXERCÍCIO!

LONDRES, 12 (U. P.) — Urgente — O governo jugoslavo comunicou à sua legação em Londres que o rei Pedro incorporou-se ao exército.

"DUNKERKE" NA GREGIA

NOVA YORK, 12 (T. O.) — Os jornais noticiam, sob grandes títulos, o primeiro choque, desde Dunkerke, entre forças

angio-germanicas, na batalha que atualmente se trava no Norte da Grécia. Informam os vespertinos que ambas as alas dos exércitos ingleses já empreenderam movimentos de recuo, ante a terrível pressão das divisões blindadas teutas, recelando-se, já agora, a repetição de um segundo Dunkerke.

ATENAS, 12 (U. P.) — Durante a noite continuou o choque entre patrulhas aliadas e alemãs, no norte da Grécia e considera-se iminente uma ação geral, de grande envergadura. As informações radio-telegráficas da Jugoslávia dizem que os jugoslavos continuam opondo uma heroica resistência aos alemães impedindo-lhe o avanço.

AVANÇO ITALIANO

ROMA, 12 (U. P.) — Urgente — O alto comando anuncia que as tropas italianas ocuparam Ljubljana, depois de quebrar a resistência dos jugoslavos.

ATINGIDA A SEGUNDA LINHA DE DEFESA

LONDRES, 11 (U. P.) — Segundo um correspondente da C. B. F., os alemães atingiram a segunda linha da defesa grega a cento e trinta e cinco quilômetros a oeste de Salónica, nas proximidades de Florina.

Os gregos estão resistindo apoiados pelas tropas britânicas.

CONTACTO DE ALEMÃES E ITALIANOS!

BERLIM, 12 (T. O.) — Informa o alto comando alemão, que "a 11 do corrente, as tropas germanicas que operam no sul da Sérvia conseguiram estabelecer contacto com as tropas italianas que operam ao norte do Lago Ochrida".

HITLER FELICITA O DUCE

BERLIM, 12 (T. O.) — O "Fuehrer" da Alemanha enviou a seguinte mensagem ao chefe do governo italiano: "Duce! No momento em que pela primeira vez na frente jugoslava unidades das tropas alemãs e italianas estabeleceram contacto, saudando-vos cordialmente, externando sincera e fiel camaradagem. Assinado: Adolf Hitler".

AS TROPAS GERMANICAS AVANÇAM!

BERLIM, 12 (T. O.) — O boletim militar alemão de 9 informa que as forças germanicas atacam o inimigo de Nisch, na direção noroeste, dispersando várias divisões inimigas no centro da Sérvia. Foram feitos 70.000 prisioneiros e capturados 70 canhões, além de enorme quantidade de material bélico.

ONDE SE CONCENTRAM OS BRITÂNICOS NA GREGIA

SALONICA, 12 (T. O.) — Urgente — Segundo o correspondente da T. O. apurou, as grandes concentrações inglesas na Grécia são feitas quase sobre a maior elevação da Grécia, dispondo os ingleses de vários golfos e baías, inclusive o Pireu, onde seus navios estão sempre de fogos acesos para qualquer retirada estratégica. Enquanto isso as tropas gregas e jugoslavas

sufrem grandes derrotas.

REINA ANARQUIA NA JUGOSLAVIA

SOFIA, 12 (T. O.) — Fugitivos búlgaros procedentes da Jugoslávia e aqui chegados informam que na Jugoslávia não ocupada reina completa anarquia. Em inúmeras cidades e povoados, as autoridades locais abandonaram seus postos, permitindo aos desordeiros praticarem tropelias. Os funcionários levam em sua fuga documentos e os fundos administrativos, deixando as cidades e povoados sem policiamento algum, de forma que a população civil aguarda ansiosamente a chegada das tropas alemãs. Todos os habitantes de origem búlgara, que podem abandonar a Jugoslávia, fogem em massa dirigindo-se para a fronteira da Bulgária.

ZURICH, 11 (U. P.) — A emissora de Zagreb informa que no caso de maus tratos aos croatas, nas zonas onde ainda domina o exército jugoslavo, as autoridades da Croácia Livre, em represália, fuzilarão todos os sérvios que forem encontrados em seu território, acrescentando que existe certo número de oficiais sérvios como reféns.

ZURICH, 11 (U. P.) — A rádio emissora de Zagreb informa que aviões jugoslavos voaram sobre zonas da Croácia ocupadas pelos alemães e lançaram bombas sobre algumas localidades.

DIRIGIU-SE PARA A CROACIA O DR. PAVELITSCH

ROMA, 12 (T. O.) — O dr. Ante Pavelitsch, chefe dos croatas independentes deixou sua residência na Itália, dirigindo-se para a Croácia. A emissora de Agram irradiou um apelo suscitado pelo dr. Pavelitsch, proclamando a independência da Croácia. A imprensa italiana limita-se em suas edições de hoje a registrar o fato, e a entrada triunfal das tropas alemãs na capital croata, sem lhes aduzir comentários. Mais adiante, compara a dissolução da Jugoslávia com a que ocorreu com a Checoslováquia, salientando que, novamente, se dissolve um Estado criado pelo tratado de Vervaihes. Os jornais italiano publicam também a proclamação do regente húngaro, qualificando-a de "acontecimento transcendental".

A BULGÁRIA TAMBÉM...

SOFIA, 12 (T. O.) — Todos os jornais de hoje mostram grande regosijo pela entrada da Hungria na guerra, fazendo notar que isto acelerará a destruição do exército jugoslavo. Também os circuitos políticos e militares búlgaros confirmam este parecer e acrescentam que a ação húngara interessa a todos os estados do sueste da Europa, pois assim vem a ser evitado inútil derramamento de sangue. Alguns sérvios ambiciosos, aliás, não poderiam transformar numa fogueira os Balcãs.

O jornal "Sora" diz que a Bulgária também tem algumas

contas a ajustar com os jugoslavos. Se nunca as pós no terreno das discussões foi porque confiava no pacto de amizade búlgaro jugoslavo. Este pacto porém, já nenhum valor pode ter desde o momento em que os sérvios traíram o Pacto Triplice.

A INGLATERRA FAZ PRESSÃO SOBRE O EGITO

CAIRO, 12 (T. O.) — Sabe-se que a Inglaterra diante de sua crítica situação na Cirenaica apelou para o governo do Egito, afim de entrar na guerra a seu favor. Os jornais opositonistas advertem o governo de que não ceda a qualquer pressão britânica, pois já são muitas as nações que por atenderem ao governo de Londres acham-se em franca dissolução e sem a sua independência.

DECLARAÇÕES JAPONESAS

TOKYO, 12 (T. O.) — Na Conferência da Imprensa, hoje o porta-voz do Departamento de Informações Japones qualificou a declaração feita pelo ministro do Exterior Japonês Matsuoka, em Moscou, perante os representantes da imprensa estrangeira, relativamente à Jugoslávia, como plenamente de acordo com a opinião do governo japonês.

De fato, a Jugoslávia, tendo traído o Pacto Triplice, nenhuma consideração merece por parte do governo nipônico. O porta-voz acentuou que a Alemanha e a Itália tudo fizeram para evitar o conflito, mas de parte jugoslava criou-se uma situação insuportável depois do golpe de estado.

EVACUAÇÃO DE ANKARA

LONDRES, 11 (D.) — A Turquia manteve absoluta neutralidade com referência à ação teutônica contra a Jugoslávia e Grécia.

Entretanto, informa-se que dia 10, o governo de Ankara teria ordenado subitamente a evacuação da cidade de Ankara, provocando grande sensação nos habitantes do seu território europeu.

Segundo divulga hoje a "Exchange Telegraph", o governo turco teria promulgado a lei marcial para todo o país.

QUE ATITUDE TOMARA A TURQUIA? — EDITORIAL DO JORNAL "KOKUMIN"

TOKYO, 11 (D.) — Sob o título "A Turquia entrará em ação?", o jornal "Kokumin" escreve em seu editorial de hoje sobre a relação que existe entre o destino desse país e o da Rumania e da Bulgária, salientando que é digna de atenção dos circuitos políticos a atitude a ser tomada pela Turquia pois nas condições atuais do Balcãs ela não poderá conservar-se tranquila. O que vai determinar a atitude da Turquia não é somente a guerra teuto-jugoslava mas sim a questão do domínio aéreo e marítimo do mar Adriático.

Se esse domínio cair sob o poder dos ingleses, a hipótese será uma e se cair sob dos italianos será diversa a hipótese. Terminando, diz o articulista:

"E' por isso que esperamos a vitória da Itália nesse setor".

A VERDADEIRA ATITUDE DA TURQUIA

STAMBUL, 12 (T. O.) — O governo turco por seus órgãos competentes reiterou inequivocamente que a Turquia não entrará na guerra e que manterá sua estrita neutralidade em face do conflito nos Balcãs.

A RUSSIA E A TURQUIA NÃO DEIXARÃO DE SOPRER A INFLUÊNCIA

NOVA YORK, 12 (T. O.) — O tema principal do noticiário estrangeiro continua a ser a guerra nos Balcãs, despertando especial atenção o suposto contacto estabelecido, pela primeira vez, entre divisões blindadas alemãs e tropas britânicas, no norte da Grécia. Os jornais, em seus comentários, salientam a situação grave criada para a Inglaterra, em consequência dos êxitos italo-germanicos na África e no sueste europeu. Escreve o jornal, "New York Sun" que o atual desenvolvimento militar, plenamente favorável às forças do "eixo", terá os seus mais amplos efeitos psicológicos também no terreno político, especialmente no que se refere à atitude da Rússia e da Turquia. Consta do "New York Sun" que a Grã-Bretanha encontra-se, atualmente na época mais crítica de sua história.

SEXTA-FEIRA SANTA EM

BUDAPEST, 12 (T. O.)

BERLIM, 11 (U. P.) — Enquanto prossegue com êxito a "britzkrieg" alemã nas frentes do sueste europeu, a Alemanha observa, hoje, a Sexta-feira Santa.

Em Berlim permaneceram fechados o comércio e a indústria, não tendo saído a rua os jornais.

RELANCE DA SITUAÇÃO DA GUERRA NOS BALCANS

BERLIM, 10 (D.) — As forças alemãs em operação nos Balcãs já terminaram a sua primeira fase de operações e agora estão executando o segundo plano de luta contra os territórios ocupados pelos ingleses. Os 150 mil jugoslavos e os 300 mil gregos refugiaram-se na planície de Thessalia, ao sul da Cordilheira de Olimpos, e estão preparando para se defenderem da ofensiva alemã. As tropas alemãs do sul da Jugoslávia e as tropas que conquistaram Salónica, formam uma enorme rede e vão atacar agora as forças gregas. Na planície de Thessalia vai dar-se o primeiro grande encontro inevitável das duas forças. A Inglaterra usou até agora do porto de Salónica como ponto de abastecimento,

mas com a tomada dessa cidade pelo alemães, os ingleses mudaram o seu porto para Pireo — no sul da Grécia. As tropas inglesas têm somente uma estrada de ferro que vai para o norte do país. Entretanto a aviação alemã já está bombardeando essa estrada de ferro e também o porto de Pireo. Isso resulta que, em breve, os ingleses não só não terão mais vias de abastecimento, mas também ficarão sem vias para a sua retirada, resultando disso um caso semelhante ao de Dunkerke. As tropas alemãs, que ligando a Jugoslávia e a Albania, cortaram a comunicação da Jugoslávia com a Grécia, estão formando uma extensa rede por três lados. Ao norte já se acham próximo de Belgrado. As tropas jugoslavias, concentrando-se nas regiões montanhosas, vão seguir o sistema de guerrilhas. O comando alemão, não se importando desse plano, procurará conquistar todas as principais posições e cortando as comunicações, fará com que os inimigos fiquem sem armas e munições.

O Jugoslávia é país exportador de trigo e outros gêneros alimentícios, mas a colheita no ano passado foi muito pouca devido ao intenso frio e às enchentes, e com a falta de comunicações não poderá recorrer à importação. Nessas condições, a Jugoslávia deverá entregar-se por falta de viveres.

Excluídos da Zona de Guerra o Mar Vermelho e o Mar de Aden

Declarações do Presidente Roosevelt

WASHINGTON, 11 (D.) — O presidente Roosevelt aprovou hoje, a decisão de excluir o Mar Vermelho, e o Mar de Aden das zonas marítimas em guerra.

Referindo-se a esse assunto, o presidente Roosevelt fez as seguintes declarações à imprensa:

"Com a modificação da zona marítima em guerra, as unidades mercantis americanas poderão transportar mercadorias para Ismalia, através do canal de Suez, e Port Said, porém, o Mar Mediterrâneo continua inclusa no setor de guerra.

Todavia, a modificação da zona marítima de guerra não infringe a lei de neutralidade que prescreve terminantemente, o fornecimento de materiais bélicos aos países em guerra, pois o principal objetivo da nova alteração visa a exportação para o Egipto que é uma potência neutra".

Interrogado se em última análise a venda de materiais de guerra ao Egipto, embora não infrinja as leis da neutralidade, não vinha auxiliar diretamente as nações em guerra, o presi-

dente declinou a dar qualquer resposta.

Evitou, igualmente, de responder de modo decisivo, à pergunta de um jornalista sobre a verdade do plano de transportar as cargas destinadas à Grã-Bretanha até o porto de Halifax, no Canadá.

O governo de Washington publicou ainda a aprovação pelas duas câmaras do plano apresentado pelo presidente Roosevelt referente à impossibilidade de reconhecer a cessão do domínio situado no hemisfério ocidental às outras nações não americanas.

Sobre esta deliberação do Parlamento, o presidente Roosevelt, na entrevista coletiva concedida aos jornalistas declarou que a Groelândia deve ser considerada como uma parte do hemisfério ocidental.

Prosseguirão hoje as conversações do ministro Matsuoka

MOSCOU, 12 — (T. O.) — O ministro dos Exteriores japonês Matsuoka, chegou hoje de manhã a Moscou, procedente de Leningrado, onde transcorrerá a jornada de ontem. O sr. Matsuoka realizou em Leningrado uma visita às fábricas russas. A sua chegada àquela cidade, o ministro japonês foi recebido pelo governo local, cujos membros o homenagearam com um banquete.

Terceira Conferência Matsuoka-Molotoff

MOSCOU, 12 (T. O.) — Sexta-feira à noite foi publicado o seguinte comunicado oficial: "A 11 do corrente foi realizada a 3ª conferência entre o presidente do conselho dos comissários e ministros dos exteriores, Molotoff e o seu colega do Japão, Matsuoka, à qual assistiu o embaixador japonês, Tatakawa. As questões tratadas relacionam-se aos interesses de ambos os países."

O ataque ao navio "Taubaté"

Resposta do embaixador da Alemanha ao protesto brasileiro

RIO, 10 — Comunica-nos o D. I. P.: "O Ministério das Relações Exteriores recebeu, ontem, da embaixada da Alemanha, uma nota pela qual lhe foi comunicado que o governo alemão, ao tomar conhecimento da nota que o Ministério das Relações Exteriores dirigiu àquela missão diplomática, acerca do ataque sofrido pelo navio brasileiro "Taubaté", determinou que fosse logo apurado o fato. Acrescenta a embaixada da Alemanha, na nota em apreço, que, uma vez confirmados os pormenores, dispostos àquela missão diplomática, pelo Ministério das Relações Exteriores, o governo do Reich não hesitará em solucionar o caso, "de maneira consentânea com as relações de amizade existentes entre o Brasil e a Alemanha".

A permanência do casal Amaral Peixoto nos E. U.

Declarações do Interventor do Estado do Rio de Janeiro

NOVA YORK 10. A sra. Alzira Vargas, do casal Amaral Peixoto, filha do Presidente Vargas, foi recebida hoje pelo prefeito Fiorello de la Guardia, no palácio da Municipalidade de Nova York. Foi realizado depois, no "India House" um almoço em sua honra. Nova York, 10 - "Os laços que unem o Brasil aos Estados Unidos, estreitam-se constantemente". Tal foi a declaração feita aos jornalistas pelo sr. Hernani do Amaral Peixoto, Interventor do Estado do Rio de Janeiro, em entrevista coletiva dada à imprensa no hotel em que se acha hospedado em Nova York. O ilustre visitante brasileiro falou longamente das necessidades, possibilidades e projetos do seu país. Disse esperar que a sua viagem aos Estados Unidos pudesse ativar a conclusão das negociações entabuladas com o industrial Henry Ford para a instalação de uma fábrica de automóveis no Brasil. Acentuou que são excelentes as condições para estabelecimento de novas indústrias, num país onde os movimentos trabalhistas são desconhecidos.

As relações comerciais do Brasil com a Europa

Declarações do ministro Joaquim Eulálio

RIO, 10 — O ministro Joaquim Eulálio, recém-nomeado presidente da Comissão de Defesa da Economia Nacional e que ocupará também o cargo de diretor do Conselho Federal do Comércio Exterior, falando à imprensa, a respeito das relações comerciais do Brasil com a Europa, de onde regressou há dias, disse: — "A minha permanência na Polónia durou até o momento em que me foi possível isto é, retirei-me com o governo polonês para a França. As nossas relações comerciais com a Polónia eram as mais promissoras e vinham de longa data. Fui eu quem negociou a abertura da nossa chancelaria em Belgrado, tendo sido, consequentemente, o primeiro ministro do nosso país na Iugoslávia. Também me coube a tarefa de restabelecer a nossa representação em Atenas, que não existia há muito tempo. As nossas relações comerciais com esses países eram, como já acentuei, as mais auspiciosas. Na Grécia, por exemplo, o nosso café tinha um consumo, talvez, de 95%. A Grécia, pequeno país, tem, entretanto, uma marinha mercante importante. O seu pavilhão ocupava uma posição de destaque nos mares das Repúblicas do Prata. A Iugoslávia também consumia vários dos nossos produtos e, em maior escala, o café. Devemos aproveitar o momento para a conquista de novos mercados. Perguntado sobre a capacidade do Brasil, em atender a possíveis requisições de gêneros alimentícios, caso entrem na guerra os Estados Unidos s. s. respondeu: — Evidentemente, a nossa produção é já considerável mas devemos pensar, principalmente, no problema do abastecimento de após guerra. A produção de gêneros vai ser muito maior pelos países, depois da luta, do que na atual circunstância. Além disso, é indispensável estudar-se, também, a forma de pagamento que será feita ao Brasil.

Comemorando o "Dia Pan-Americano" O serviço telefônico entre o Brasil e a Bolívia.

RIO, 10 — No próximo dia 14, Dia Pan-Americano, será inaugurado, o serviço telefônico internacional entre o Brasil e todos os assinantes da rede telefônica de La Paz, capital da Bolívia. A inauguração será feita com uma comunicação telefônica, entre os srs. Humberto Muñoz Cornejo, prefeito de La Paz e Henrique Dodsworth, prefeito da Capital Federal. Na mesma ocasião, será também inaugurado o novo serviço telefônico automático da municipalidade de La Paz, a qual assinou um acordo com a Companhia Internacional de Rádio Boliviana, tornando dessa forma possível a comunicação de qualquer assinante, da rede da Companhia Telefônica Brasileira, com qualquer assinante da rede telefônica de La Paz.

O destino dos navios das potências do "Eixo" confiscados pelo governo do México

MEXICO, 12 (T. O.) — Realizar-se-á na próxima segunda-feira uma conferência entre representantes dos Ministérios da Marinha, da Agricultura e das Finanças e o diretor geral dos Petróleos Mexicanos, afim de ser deliberado sobre o destino dos navios confiscados pelas autoridades mexicanas e pertencentes às potências do "eixo". Entrementos o Ministério da Marinha mexicano determinou que fossem vigiados ainda mais os barcos ancorados em Tampico e Vera Cruz afim de impedir qualquer ato de sabotagem. agora apenas a Venezuela e

ASSEMBLEIA DE CONSTITUIÇÃO

da Companhia Siderurgica Nacional Eleição da Diretoria e demais Organs Administrativos

RIO, 9 — Revestiu-se de excepcional vibração a assembleia geral da constituição da Cia Siderurgica Nacional, realizada hoje à tarde, no salão nobre da Bolsa de Fundos Públicos. Muito antes da hora marcada para início dos trabalhos, começaram a chegar ao edifício da Bolsa, destacadas figuras dos círculos bancários, comerciais, membros da alta administração, subscritores e outras pessoas gradas. As 16 horas, o sr. Guilherme Guinle, em companhia dos srs. Oscar Weineschenk, Ary Torres e Francisco Sá Filho, tomou lugar à mesa, dando início aos trabalhos. O presidente da Comissão Executiva do Plano Siderurgico Nacional, pronunciou, então, importante discurso, realçando a grande significação da nova empresa para a economia do Brasil. ELEIÇÃO DOS DEMAIS MEMBROS DA ADMINISTRAÇÃO O sr. Marques dos Reis anunciou em continuação, que se iria proceder à eleição dos demais membros da administração: diretoria, conselho consultivo e conselho fiscal. Pedindo a palavra o sr. Francisco Sá Filho, submeteu à consideração da casa, por intermédio da mesa, uma série de nomes para integrar a administração da Companhia. Os presentes receberam sob palmas a proposta, elegendo as seguintes pessoas: para vice-presidente, engenheiro Ary Torres; para diretor técnico, tenente-coronel Edmundo de Macedo Soares e Silva; para diretor comercial, engenheiro Oscar Weineschenk e para diretor secretário, o sr. Alfredo de Souza Reis Junior. Para membros do conselho consultivo, foram eleitos os srs. Fabio da Silva Prado, José Carneiro Felipe, Sebastião Virgílio Ferreira, Luciano Jacques de Moraes, tenente-coronel Silvío Raulino de Oliveira e Ernesto G. Fontes. Para membros efetivos do conselho fiscal foram eleitos os srs. general José Meira de Vasconcelos, Paulo Lira e Ubaldo Lobo, e para suplentes os srs. Ovidio Paulo de Medeiros Gil, João de Loureiro e João Ferreira de Moraes Junior. O sr. Vitor Bastian propôs a seguir fossem fixados, pela assembleia, os vencimentos dos membros do Conselho Fiscal. A sua proposta foi aprovada.

TELEGRAMAS DO EXTERIOR

Problemas internos e externos

examinados pelo Principe Konoye em entrevista com os representantes da imprensa

TOKYO, 12 (D.) — O primeiro ministro Konoye concedeu ontem à tarde, uma entrevista aos jornalistas acreditados junto ao Gabinete. Entre as perguntas e respostas mais importantes destacamos as seguintes: 1.º — PROBLEMAS INTERNOS P. — Quais os planos futuros para o fortalecimento da força política do ministério? R. — Não há mais necessidade de substituição do elemento pessoal. Pretendo conduzir o fortalecimento com os membros atuais do Gabinete. P. — Como será executado o plano geral da nova ordem econômica? R. — Ele jamais será modificado, seja quem for o novo membro a entrar no gabinete. P. — Vai prosseguir na política de baixo preço? R. — E' uma orientação mais ou menos fixa. P. — Pensa criar um conselho econômico superior, com a participação de representantes populares? R. — No momento não penso em criá-lo. Mas os ministros das pastas econômicas e os das pastas militares esperam realizar conversações com os representantes dos círculos financeiros. Desejo levá-las a efeito dentro em breve. P. — Pretende fortalecer a organização política nacional exclusivamente com a Associação Pró-Política Imperial? R. — Só com a Associação Pró-Política Imperial. P. — Como pensa a respeito do Clube dos Congressistas? R. — Estou de acordo com o plano de se organizar um clube de caráter social em que tomem parte congressistas das duas Camaras. Eu, pessoalmente, já dei minha adesão, como membro da Camara dos Pares. P. — Pretendem colocar vossa excia na presidência do novo clube? R. — Resolverei se assumo ou não a presidência na ocasião de ser convidado. 2.º — PROBLEMAS EXTERNOS P. Qual o futuro do conflito chinês? R. — Não combateremos o regime Chang, até o fim, somente para o bem do governo do Wang-Ching-Wei. Seria ideal se a paz fosse conquistada pela fusão dos governos do sr. Wang-Ching-Wei e de Chungking. P. — E o problema do sul? R. — Apenas queremos uma expansão econômica. O Japão não pensa absolutamente em incluir o sul ao seu "bloco". P. — Qual a atitude das Indias Holandesas em relação ao Japão? R. — A propaganda anglo-americana domina aquela possessão. Acredito que os anglo-americanos vencerão. Penso também que as mercadorias exportadas para o Japão vão para a Alemanha. Daí as dificuldades das negociações que estamos realizando. P. — As conversações econômicas entre o Japão e a Indochina Francesa alcançaram êxito? R. — Sim. P. — E as relações com os Soviets? R. — Nada posso adiantar ainda. Mas elas não estão se dirigindo para o pior. P. — Que pensa das nossas relações com os Estados Unidos e o movimento anglo-americano no Pacífico? R. — Penso que enquanto o Japão fizer parte do "eixo" e prosseguir na campanha da China, os Estados Unidos farão pressão sobre o Japão, sob várias formas. Um dos verdadeiros significados do pacto triplice é evitar a entrada dos Estados Unidos na guerra. Penso ser necessário fazer-lhes compreender este significado. P. — Mas as relações nipônicas não piorarão cada vez mais? R. — Não pensamos que elas sejam realmente más. P. — Qual a nova política exterior, após o regresso do ministro Matsuoka? R. — O princípio de que a nossa política estrangeira será baseada na triplíce aliança não será modificado, mesmo após o regresso de Matsuoka. Enfrentamos muitos problemas, mas nenhum é insolúvel, segundo o meu modo de pensar.

Acordo inter-americano de Café

Faltam decidir a Venezuela e Cuba

WASHINGTON, 10 — O acordo inter-americano de Café foi ratificado ontem, pela Guatemala e pelo Haiti. Eleva-se, assim, a 10 o número de nações que já depositaram os instrumentos competentes de ratificação. A vista disso, diz-se, em fontes autorizadas, que o protocolo pondo em vigor o acordo será firmado em sessão regular plenária, marcada para dia 17 de Abril do Comité Inter-Americano e Financeiro. Os dez países que firmaram o acordo são o Brasil, Colombia, Costa Rica, Salvador, Guatemala, Haiti, Honduras, México, Peru, e Estados Unidos. Posto que até agora o Equador e República Dominicana não tenham ratificado o acordo, existe a possibilidade de que venham a fazê-lo por ocasião da assinatura de protocolo. Até

Ação judicial entre súditos de países beligerantes não residentes no Brasil

RIO, 10 — O presidente da República assinou o seguinte decreto-lei, dispondo sobre a ação judicial entre súditos de países beligerantes não residentes no Brasil: Art. 1.º — Enquanto perdurar a guerra, não podem ser objeto de ação judicial, no Brasil, créditos, obrigações e contratos entre súditos de países beligerantes não residentes no país. Art. 2.º — Revogam-se as disposições em contrário.

O governo norte-americano pretende adquirir os navios surtos em seus portos

O governo pede a aprovação do Parlamento

WASHINGTON, 10 (D.) — Em vista da intensa atividade da Esquadilha Aérea Alemã, o número de navios perdidos pela Inglaterra aumenta cada vez mais. Ativar intensamente o auxílio à Grã-Bretanha tornou-se problema urgente dos Estados Unidos. O presidente Roosevelt enviou à sessão de hoje da Camara dos Representantes, vários documentos e solicitou a aprovação do plano do governo, de adquirir os navios surtos em portos norte-americanos com a verba de defesa nacional aprovada no dia 27 de Março findo. Nos vários documentos em questão, o presidente Roosevelt expôs as seguintes razões sobre essa medida que tenciona tomar o governo: "Levando-se em consideração o plano de defesa nacional é a efeito com as autoridades relacionadas, o governo resolveu pedir a aprovação do plano de compra dos navios que se acham surtos nos portos norte-americanos, para serem utilizados na defesa do país. Si deixarmos descuidada a falta de navios que está aumentando cada dia mais, isso resultaria num grande perigo para a defesa dos próprios Estados Unidos. As mercadorias depositadas nbs numerosos portos devem ser transportadas logo para o estrangeiro, caso contrário cessar-se-á a produção no país, aumentando por consequente o número dos desempregados. Como consequência tornar-se-á também difícil o empreendimento fiel dos contratos de fabricas encarregadas de fabricação de artigos de defesa nacional. Comprar todos os navios que se acham atualmente nos portos dos E. U. é medida que o governo deve tomar com a maior urgência."

Movimento dos emporios e das mercearias da cidade na Semana Santa

OS PREÇOS DAS MERCADORIAS

Telegramas do Rio, anunciam que o carioca vai passar uma Semana Santa com fartura de peixe. Dos vinte e seis barcos que estavam em alto mar pescando, a maioria, já havia tornado ao porto, trazendo cada um, em média, dez toneladas de pescado. Pois esamos, em plena Semana Santa. A população de São Paulo, igualmente, não sentirá falta de gêneros alimentícios procurados nos derradeiros dias da quaresma.

— mesmo no momento que entramos. — Quatorze mil réis, minha senhora. Estivemos depois em outras casas. Em quasi todas, é esse o preço do bacalhau sem espinha. Além desse produto, peles empórios e mercearias, em grandes pilhas e em exposições pelas portas se vêem ainda caixotes e caixotes de pescado, de enxovas, sardinhas frescas em quantidade...

NOS EMPORIOS E MERCEARIAS
A reportagem da "Folha da Noite" percorreu hoje diversos empórios e mercearias do centro da cidade. Grande movimento por toda parte. Estavam cheios, repletos de gente. Homens e mulheres. Uns que entravam, outros que saiam, no afã de saber preços, examinar mercadorias, fazer sortimento. De um modo geral, os preços são iguais nos estabelecimentos da cidade.

— E este camarão sem casca? — Doze mil réis o quilo, minha senhora. Estes, com casca, custam, seis. O pescado, dezoito. Em um estabelecimento, conversamos um pouco com o seu proprietário. Prosa ligeira, de dois dedos. Adiantou-nos que nada faltará durante os dias restantes da semana. Ha tudo em grande quantidade, muito embora a procura de outros gêneros alimentícios para suprir a carne verde seja em larga escala. Em todas as casas congeneres é a mesma coisa.

PEIXES, OVOS E AVES
Estivemos depois no Mercado Municipal. Corremos todas as suas dependências, vendo e anotando. Muita gente e muito movimento. Carregamentos que chegam, caminhões desembarcando produtos de toda procedência e de todas as qualidades. Principalmente peixes, ovos e aves.

Namorados	10\$000
Vermelhos	7\$000
Robalo	12\$000
Tainha	5\$000
Pescadinha	6\$000
Mariscos	2\$000
Sardinha	2\$000

O pescado para o Mercado Municipal de São Paulo vem, de modo geral, do Rio de Janeiro. Nestes dias, estão entrando, diariamente, só naquele logradouro público, mais ou menos três mil quilos de peixe. São Paulo inteiro está recebendo perto de dez mil quilos, distribuídos pelos seus diversos postos e entrepostos.

Além disso, diferentemente das semanas anteriores, grande é o número de aves e de ovos que tem chegado de várias cidades do interior, não se falando das variedades de frutas, em pirâmides vermelhas, amarelas, verdes, ao longo das dependências do Mercado Municipal.

Pelas mesas brancas de mármore, num mixto de côr e de tamanho, se alinham tainhas, mariscos, namorados, robalo, pescadinha, camarão fresco, vermelho, enfim, uma variedade imensa, especialmente para os dias da Semana Santa. Com pequenas diferenças, os preços, por quilo, são os seguintes:

O segundo jogo será entre Nonishi e Nishitani. Hoje é o dia que o "pitcher" Misumi, do Nishitani deverá mostrar o seu verdadeiro valor. A equipe do Konishi, por sua vez, está com bastante confiança nas bolas do seu "pitcher" Matsuno. Entretanto um como o outro "pitcher" são ainda muito jovens e por conseguinte a sua técnica não é ainda bastante firme. Quanto aos "batters", os da turma de Konishi parece que levam vantagem mas é preciso notar que o Nishitani possui também perigosos "batters" como Missumi e Kinoshita.

10.º Aniversario da Fundação da Escola Japonesa de Santos

A Escola Japonesa, de propriedade da Sociedade Instrutora de Vila Matias, Santos, comemorou, a 6 do corrente, o 10.º aniversário de sua abertura. As 14 horas daquele dia, com a presença do sr. Saito, novo vice-consul em Santos, e dos diretores da citada sociedade,

centenas de pais dos escolares tomaram parte na festividade comemorativa, que teve lugar no prédio da escola. O sr. Nakashima, presidente da sociedade saudou os presentes e o sr. Uehara fez um histórico da escola. Iniciando o programa de ginástica e competição esportiva,

os alunos realizaram uma demonstração de ginástica, que arrancou entusiástico aplauso da assistência. A seguir houve jogos de futebol e voleibol e finalmente uma partida de tennis, para inaugurar a nova quadra do Tennis Clube Japonês.

Os jogos de hoje do Campeonato de base-ball de São Paulo

Realizam-se no campo de Kanakao a 6.ª série de jogos do 6.º Campeonato. O primeiro jogo será entre a turma de Notícias do Brasil e Kanakao. Esse jogo será bastante interessante pois o team de Notícias do Brasil está agora com novos elementos, de maneira que, conforme a performance dos jogadores do Notícias do Brasil a conquista da vitória não será muito facil a Kanakao.

JOGOS DE BASE-BALL EM ALVARES MACHADO — O PREPARO DE NOVOS JOGADORES
O "team" de base-ball de Alvares Machado que por duas vezes foi derrotado pelos defensores de Presidente Prudente, está atualmente em ativos preparativos para demonstrar em breve o seu verdadeiro valor. Por outro lado, os esforços dos líderes basebolísticos daquela região do "hinterland" paulista, não têm sido poucos para a formação de novos jogadores. Assim é que nos dias 5 e 6 do corrente, foram realizados vários jogos em que tomaram parte vários "teams" locais. As equipes que participaram dessa competição foram as seguintes: Central, Primeiro, Segundo, Terceiro, Quarto e Taiheyô.

A luta final, realizada à tarde do 2.º dia, entre a Central e o Taiheyô foi bastante reñida. Ao principio a turma de Taiheyô estava na liderança mas da sexta partida em diante a turma da Central iniciou uma forte ofensiva, tendo colocado os seus adversários em situação desfavoravel. A vitória sorriu aos defensores das cores da Central, tendo sido de 8 a 7 a contagem final.

O segundo jogo será entre Nonishi e Nishitani. Hoje é o dia que o "pitcher" Misumi, do Nishitani deverá mostrar o seu verdadeiro valor. A equipe do Konishi, por sua vez, está com bastante confiança nas bolas do seu "pitcher" Matsuno. Entretanto um como o outro "pitcher" são ainda muito jovens e por conseguinte a sua técnica não é ainda bastante firme. Quanto aos "batters", os da turma de Konishi parece que levam vantagem mas é preciso notar que o Nishitani possui também perigosos "batters" como Missumi e Kinoshita.

Foram os seguintes os resultados do 1.º dia de jogo: Central — 19 x Quarto — 8. Terceiro — 16 x Segundo — 3. Taiheyô 12 x Terceiro — 5. No segundo dia a primeira luta foi entre o Quarto e o Segundo, tendo sido este derrotado pela contagem de 17 a 6.

MANHÃ DE PASCOA
13-IV-1941
A festa da Páscoa, ponto culminante do ano eclesiástico, é denominada pela Igreja "a solenidade das solenidades". Ela se celebra durante oito dias, durante os quais os cânticos de jubilo não cessam; os seus ecos ajuda se prolongam através todo o Tempo Paschal, até o fim da semana de Pentecostes.

LAPIDAGEM DO DIAMANTE "PRESIDENTE VARGAS"

NOVA YORK, 9 — Nas oficinas Harry Winston vai ser cortado hoje o diamante "Presidente Vargas", considerado o maior dos que existem no mundo. A preciosa gema, depois de meticulosamente estudada pelos peritos, será dividida em 20 partes que, depois de lapidadas, terão o valor de 2 milhões de dólares.

Os trabalhos de lapidação e preparo dessas pedras durarão 15 meses. O enorme diamante foi encontrado no rio Santo Antonio, no Brasil, em Agosto de 1938.

Luta de longa duração

(Fatos diversos)
A Rádio de Presidente Prudente está irradiando discos japoneses da "Nippak-Sha", na "Hora do Japão".

O "jiu-jutsu" está sendo posto em exibição pelos irmãos Gracie no "Tabú" desta capital.

O sr. José Ortiz, filho do presidente da República Argentina e secretário particular de sua excia. vai visitar o Japão em Maio próximo.

Outrossim o Departamento de Turismo do Japão vai enviar 40 quadros dos pintores Talkwan Yokoyama, Gyokudô Kawai e Shimizu Ito, para Buenos Aires. Após uma exibição na capital portenha será exibido também no Brasil.

O sr. Hachisaburo Hirao, que já esteve no Brasil, na chefia

duma Missão Económica, quando era presidente dos Estaleiros Kawasaki, recusou os honorários do cargo. Agora, ao ocupar o cargo de presidente da Siderurgica Japonesa, também recusou-se a receber os seus vencimentos de 70.000 yens, e comunicou a sua decisão ao Ministério do Comércio e Indústria.

Não ha Tanoeiros Brasileiros

Foi aberta, por isso, uma exceção na lei dos dois terços

O ministro do Trabalho declinando sobre um pedido da firma Henrique Domingos da Silva, estabelecida com officina de tanoaria nesta capital,

pediu ao sr. ministro do Trabalho isenção do cumprimento da lei de dois terços, sob a alegação de não haver tanoeiros nacionais para obra de tanque.

O titular do Trabalho deferiu o pedido, em carater excepcional, tendo em vista o parecer do Departamento Nacional do Trabalho, que opinou favoravelmente, uma vez que ficou provido por declaração da Aliança dos Operários da Indústria da Construção Civil, não existir no momento tanoeiros nacionais para obras de estamque.

Importante fábrica de gravatas japonesa que se transfere para o Brasil

Tendo sido fechada a fábrica de gravatas de confecção especial "Nishidin" (mundialmente conhecida), por acharem as autoridades, artigo de luxo, a firma, que fora estabelecida em Kyoto, resolveu transferir-se para o Brasil.

E assim que vários técnicos, acompanhados de suas respectivas famílias, embarcaram a bordo do "Arabia Marú", que chegará ao porto de Santos a 11 do mês próximo.

Integralista preso em Belo Horizonte

BELO HORIZONTE, 8 (A. N.) — Acaba de ser preso nesta capital, onde se achava homisiado o ex-sargento rádio-telegrafista da Armada, Jorge Ferreira dos Santos, que participou da intenção integralista de Maio de 1937 contra o Palácio Guanabara.

portou para Minas. Aqui trabalhou 5 meses na Companhia Siderurgica do Sabará, resolvendo finalmente fixar residência em Belo Horizonte, onde passou a usar o suposto nome de Manuel Francisco de Assis.

Jorge Ferreira dos Santos, que conta 37 anos de idade, é solteiro e natural do Estado de Alagoas, será ainda hoje remetido à policia carioca.

Competição de Kendô na Fazenda Tietê

Supreendido por 3 investigadores que de ha muito andavam na sua pista, Jorge Ferreira dos Santos entregou-se sem resistência.

Será realizada a partir das 9 horas de 11 de Maio próximo, uma competição de "Kendô" com a participação de todas as associações de "kendô" da Fazenda Tietê.

dissimos lutarão renhidamente na defesa de suas cores, não permitindo qualquer previsão do triunfo desta ou daquela equipe.

Levado para a Policia Central, prestou depoimento. Perante as autoridades, o ex-sargento declarou que no dia seguinte ao assalto havia se transportado para a ilha do Governador, onde foi detido e logrou fugir, atirando-se ao mar e ganhando a nado a Ponta do Galeão, de onde, num caminhão, se trans-

Ao sertame comparecerão os srs. Aoki, de Lins, e Sakurai, de São Paulo, possuidores respectivamente de 2.º e 3.º graus. Cerca de doze times prepara-

Outrossim, os jovens tietêenses receberão durante a próxima semana, instruções especiais dos dois mestres, srs. Sakurai e Aoki.

Suspensão o funcionamento de todos os centros espiritas do Rio

Portaria do Chefe de Policia

RIO, 9 — O chefe de Policia do Distrito Federal assinou a seguinte portaria: "Fica suspenso o funcionamento de todos os centros espiritas desta capital que só poderão recomeçar suas atividades mediante novo exame das suas finalidades, para o que deverão os interessados se submeter a novo processo de registro. Este deverá ser informado pela De-

legacia Distrital respectiva sobre a localização do Centro: pela Delegacia Especial de Segurança Política e Social sobre os antecedentes politico-sociais dos seus componentes; pela Directoria Geral de Investigações a respeito dos antecedentes criminaes dos mesmos e pela 1.ª Delegacia Auxiliar na parte especializada, subindo, então, a despacho final desta chefia".

Construção da escola brasileira no N. C. "Kosei"

O N. C. Kosei, situado a nove quilômetros de Bandeirantes, norte do Paraná, foi fundado apenas ha poucos anos, mas já realizou um progresso realmente notavel, graças à excelência da terra e à sua salubridade. Agora acaba de ser inaugurada a escola brasileira, construida pela contribuição dos colonizadores.

A referida escola foi reconhecida oficialmente como escola pública municipal e será aberta em breve com a chegada do professor, e visará a formação de bons brasileiros, descendentes de japoneses. A escola irá beneficiar não só a colônia japonesa como todos os habitantes da localidade.

Machina D'Andrea
FABRICANTES DE MACHINAS PARA

- CAFÉ
- ARROZ
- MILHO
- MANDIOCA

F. D'ANDREA & IRMAOS
Limeira - Est. S. Paulo
AGENCIA EM S. PAULO - RUA 15 NOV. N. 1909, AND.
TELEF. 2-2202



Partiu, ante-ontem, rumo a Buenos Aires a embaixada brasileira ao Sul-americano de Atletismo

A árdua missão dos nossos representantes.

Os atletas brasileiros que formam a embaixada que representará as cores do esporte-base nacional no XII Campeonato Sul-Americano de Atletismo, embarcaram no dia 10 e 11, de Rio e de Santos, com destino à capital argentina, onde, dia 26, terá início o grande certame. Leva esta representação brasileira, que é a maior, mais completa e melhor organizada de quantas foram para fora do país, a árdua responsabilidade de defender o título de bicampeões continentais que conseguiram, sem antecessores, em 1937 e 1939, missão essa que os esportistas brasileiros lhe entregaram confiantes porque sabem que seus defensores irão fazer perfeitamente jus ao lugar que conquistaram de embaixadores do atletismo brasileiro.

A representação nacional que deixou o vizinho porto de Santos, ante-ontem, pelo "Brasil", é composta de 50 atletas, tendo como capitão o conhecido esportista Padilha. Irão como auxiliares, Gabriel Pelosi, Vitor Gouveia e Cló Rezende.

OS RESULTADOS DOS TORNEIOS DE SELEÇÃO DA EQUIPE ARGENTINA — O PROXIMO CAMPEONATO SUL-AMERICANO DE ATLETISMO

Buenos Aires, 7 — Em que pesem as vantagens que, para a equipe argentina, representa o fato de ser mais numerosa e, sobretudo, de atuar na sua própria casa, com o apoio do seu próprio público, — os cronistas e os técnicos olham com pessimismo as perspectivas que oferece ao conjunto nacional o próximo campeonato sul-americano de atletismo, que se realizará nesta capital nos últimos dias de Abril e primeiros de Maio próximo.

A opinião geral é de que as provas de seleção realizadas durante todo o mês de Março resultaram em muito pobre saldo técnico, com mui pequenas exceções, e chega-se, mesmo, a

considerar como extraordinários os casos em que representantes argentinos possam aspirar sem titubeios ao triunfo final.

Um comentarista possuidor de muitos anos de experiência do esporte-base declarou que a equipe argentina defenderá quasi completamente de um único homem: Raul Ibarra, — esse extraordinário fundista que conquistou recentemente, vários records sul-americanos. Ao seu poderiam juntar-se os nomes de dois veteranos, Frederico Kieger e Nestor Tenorio, que, em lançamento do martelo e salto triplice, respectivamente, conseguiram ultimamente marcas de destaque.

Todavia, nos demais cotejos ha escassez de elementos de valor, e os poucos que se conseguiram no ano passado não reapareceram nas pistas.

Damos abaixo os resultados dos torneios de seleção efetuados em Buenos Aires, durante o mês de março:

- PRIMEIRO TORNEIO**
100 METROS — 1.º — G. Martinez Bo; 2.º — A. Mondet; 3.º — O. Rebecchi; 4.º — Zeleski; 11"2.
- 400 METROS — 1.º — J. Triulzi; 2.º — E. Chiappetta; 3.º — Briggs; 4.º — A. Oteyza; 50"9.
- 800 METROS — 1.º — I. Ferrere; 2.º — M. Fedrizza; 3.º — S. Perez Duarte; 4.º — R. Gregg; 2' 1"4.
- 1.500 METROS — 1.º — I. Ferrere; 2.º — D. Cabrera; 3.º — J. Campagne; 4.º — M. Fedrizza; 4'2".
- 5.000 METROS 1.º — R. Corino; 2.º — A. Pereyra; 3.º — Pena; 4.º — C. Garoti; 15"8"8.
- 110 BARREIRAS — 1.º — N. Molitor; 2.º — J. Fox; 16"4.
- SALTO EM ALTURA — 1.º — Pablo Harpe, 1.75; 2.º — E. Lavecchi, 1.60; 3.º — O. Sanguinetti, 1.55.
- SALTO EM DISTANCIA — 1.º — M. Quesada, 6.64; 2.º — P. Harpe, 6.40; 3.º — R. Giukitz, 6.25.
- SALTO COM VARA — 1.º — C. Bauman, 3.50; 2.º — R. Nar-

- varro, 3.30; 3.º — J. Martinez, 3.20.
- LANÇAMENTO DO PESO — 1.º — B. Nwald, 12.07; 2.º — E. Paolotti, 11.08; 3.º — P. Furné, 11.03.
- LANÇAMENTO DO DISCO — 1.º — D. Viviani, 40.50; 2.º — B. Nwald, 38.46; 3.º — J. Fernandez, 34.62.
- LANÇAMENTO DO DARDO — 1.º — A. Becher, 56.35; 2.º — C. Kumar, 50.89; 3.º — H. Hardekopf, 47.20.
- LANÇAMENTO DO MARTELO — 1.º — F. Kieger, 49.35; 2.º — R. Zumaraga, 49.04; 3.º — O. S. Vimonte, 37.41.
- 4x100 — 1.º — equipe de San Lorenzo de Almagro, 43"6; 2.º — Gynnasia Escriba.

- PROVAS FEMININAS**
100 METROS — 1.ª Leila Spuhr; 2.ª Noemi Simonetti; 3.ª Elza Arigoeyn; 13"1; 80 ms. barreiras — 1.ª Alga Aassi; 2.ª Maria Perez Duarte; 3.ª B. Schidt, 29 ms.
- SALTO EM DISTANCIA — 1.ª O. Tassi, 4.84; 2.ª Maria Spuhr, 4.72; 3.ª Suzanna Krumenache, 4.50.
- SALTO EM ALTURA — 1.ª Leila Spuhr, 1.50; 2.ª Noemi Simonetti, 1.40.

- LANÇAMENTO DO PESO — 1.ª Ruth Caro, 10.57; 2.ª Kate Fatsner, 9.93; 3.ª M. Lopez, 8.41.
- LANÇAMENTO DO DISCO — 1.ª Marianna Tippner, 25.78; 2.ª M. Werner, 25.77; 3.ª K. Fatsner, 23.36.
- LANÇAMENTO DO DARDO — 1.ª R. Caro, 34; 2.ª Ilse Caro, 29.17; 3.ª B. Schidt, 26 m.
- RELAY 4x100 — Equipe do River Plate.

- SEGUNDO TORNEIO**
100 METROS — 1.ª G. Martinez Bo; 2.ª R. Acevedo; 3.ª A. Sande; 4.ª Pablo Salesky; 11"2.
- 400 METROS — 1.ª R. Brigg; 2.ª Oteyza; 3.ª P. Zarur; 52".
- 1.500 METROS — 1.ª I. Ferrere; 2.ª D. Cabrera; 3.ª H. Gregg; 4'3"8.
- 5.000 METROS — 1.ª D. d'Anglier; 2.ª J. Pena; 3.ª M. Rivera; 16'47".
- 4x100 — 1.ª Equipe J. de la

- Fuente, P. Fernandez, A. Mondet, R. Acevedo; 13"8.
- 2.ª equipe, G. Martinez Bo, P. Salesky, J. P. Haedo, J. C. Maglio.
- 3.ª equipe A. Sande, R. Aragón, C. Hofmeister, R. Chané.
- 4x200 — 1.ª equipe, P. Zarur, G. Gonzalez, F. Zarate, H. Opardolce — 3'40"8.
- 400 METROS BARREIRAS — 1.ª E. Publico; 2.ª G. Gonzalez, 3.ª C. Pélaez; 58"4.
- SALTO EM ALTURA — 1.º P. Harper, 1.75; 2.º R. Arzubialgal, 1.70; 3.º Sanguinetti, 1.60.

- SALTO COM VARA — 1.º N. Amezola, 3.40; 2.º C. Bauman, 3.30; R. Navarro, 3.20.
- SALTO TRIPLICE — 1.º N. Tenorio, 14.09; 2.º M. Gilabert, 13.20; 3.º R. Crawford, 12.85.
- LANÇAMENTO DO PESO — 1.º B. Nowald, 13.84; 2.º A. Salaberry, 12.27; 3.º M. Holler, 11.42.

- LANÇAMENTO DO DISCO — 1.º B. Nowald, 40.9; 2.º C. Mulsans, 38.13; 3.º R. Pirovano, 36.23.
- PROVAS FEMININAS**
200 METROS — 1.ª Leila Spuhr; 2.ª E. Irigoeyn; 3.ª E. Ferrere; 27"2.
- 80 M. BARREIRAS — 1.ª S. Krumenacher, 14"1 — O. Tassi e M. Spuhr, não terminaram por terem sofrido uma queda.
- RELAY 4x100 — 1.ª equipe, M. A. de Haedo, E. Ferrere, K. Fatsner, S. Krumenacher.

- 2.ª equipe, E. Irigoeyn, N. Simonetti, M. e L. Spuhr. (O tempo da equipe vencedora foi de 52"2 — As vencedoras obtiveram um handicap de 40 ms.).
- LANÇAMENTO DO DISCO — 1.ª turma, M. Trippner, 26.68; 2.ª, M. Werner, 25.27.

Nos torneios de seleção, Raul Ibarra não tomou parte. Todavia, demonstrou uma excelente forma quando bateu, a 10 de Março último, de maneira folgada, o recorde sul-americano dos 3.000 metros, que percorreu em 8'30"4/10. A marca continental anterior pertencia ao chileno Miguel Castro e era de 8'35".

Unidade moral e unidade economica

O Estado Novo foi fundado no sentido da unidade nacional. Toda gente se lembra de que os regionalismos se tinham ampliado e fortalecido, com ameaças ao poderoso bloco da nacionalidade. As lutas políticas e as discórdias facciosas deviam o país, de tal modo, que vivíamos expostos às ameaças periódicas da guerra civil. Criavam-se incompatibilidades insanáveis e normas funestas. Os impostos interestaduais, por exemplo, eram desse caráter, inspirando represalias, que tendiam a estabelecer focos de decomposição da unidade econômica. A testa das reformas, impostas pela nova ordem política, o Presidente Getulio Vargas promoveu a unidade moral da Nação.

O país, que vinha sentindo as inquietações das discórdias, compreendeu a conduta do Governo, robustecendo-a. O fenômeno culminou, como não podia deixar de culminar, no prestigio sem contraste do Chefe do Governo. Foi o que se sentiu nas manifestações despertadas pela passagem do décimo aniversário do seu mandato. Num discurso, da maior importância, o Presidente Getulio Vargas teve curso, da maior importância, a oportunidade de recordar os esforços despendidos na promoção

Líderes de Nataçõ Feminina

Após a incorporação da Bélgica e Holanda ao Reich em Junho do ano passado, esses países, líderes da nataçõ mundial no setor feminino, realizaram intensos treinos como se fossem um só país. Assim os records mundiais estabelecidos pelas nadadoras alemãs, belgas, holandesas e dinamarquesas desde agosto até dezembro do ano passado são os seguintes:

- Em 11 de Agosto:
1.500 metros (nado livre) Wergar (D.) 21'1".
- Em 8 de Setembro:
400 metros (nado livre) Wergar (D.) — 5'5"5.
- Em 15 de Setembro:
300 metros (nado livre) Wergar (D.) — 3'42"5.
400 metros (nado livre) Wergar (D.) — 5'0"1.
- Em 5 de Novembro:
500 metros (nado de peito) Warberg (H.) — 7'49"9.
- Em 12 de Novembro:
400 metros (nado de peito) Warberg (H.) — 6'13"7.
- Em 17 de Dezembro:
400 metros (nado de peito) Onny Kabel (A.) — 6'13"2.

da unidade nacional, lembrando que esta se processou nos planos morais, primeiro, e, depois, no terreno econômico. Hoje em dia as normas, que governam e fomentam as monarquias econômicas do país, são uniformes e libertas de influências regionalistas.

A unidade moral e a unidade econômica do Brasil constituem, hoje, conquistas inalienáveis, pois foram processadas numa atmosfera de confiança recíproca e corresponderam a justas

expectativas.

O Brasil de hoje já é contraste do Brasil de ontem. Os precedentes mandam copelute que o Brasil de amanhã será o justo prêmio de esforços constantes e a prova de que o patriotismo realiza milagres, quando compreendido com lucidez e perfeita ciência dos compromissos. E' o exemplo que o loca diante dos olhos de seus Presidentes Getulio Vargas e concidadãos cada dia que passa.

A Decima Olimpiada Infantil Juvenil do Clube Germania - As provas a serem disputadas.

Será realizada nos dia 18, 24 e 25 de Maio próximo, a X Olimpiada Infanto-Juvenil que com grande êxito vem sendo promovida anualmente pelo Esporte Clube Germania.

As inscrições para o interessante e já tradicional certame já estão abertas na secretaria do Clube de Pinheiros, devendo encerrar-se no próximo dia 26 do corrente.

que serão disputadas:

Atletismo, Boia ao Cesto, Esgrima, Futebol, Ginástica, Handbol, Nataçõ e Saltos, Polo Aquático e Tenis.

Os participantes são divididos em meninos e meninas e são classificados ainda em A, B, C e D, segundo as idades.

Informações pormenorizadas são fornecidas na secretaria do clube sita à rua Florêncio de Abreu n. 251.

E TUDO PASSOU

... E o meu velho amigo, abriu o seu caderno de notas íntimas, para que eu copiasse as linhas seguintes:

"Depois de muito tempo, — haviam se desenvolvido milhões de acontecimentos — eu te encontrarei. Tive, então, uma sensação de reviver coisas do passado, coisas que jamais pudeste recordar. O encontro foi, entretanto, fatal. Ele me conduziu, repentinamente àquela região do meu mundo interior, perdida na nebulosa amplidão do passado. Quando me apercebi que estava caindo, num momento de emoção inconsciente, intensa e invencível, no abismo do reino absoluto da sentimentalidade, procurei reagir, com todas as minhas forças, com todo meu poder de autocontrole... Mas, foi em vão, já era tarde. A comoaçõ se estampara no meu olhar, nas minhas faces e talvez até no meu gesto inconsciente... Procuraste remediar, ternamente, sorrindo, arranjando uma palavra qualquer para me

tirar do embaraço, para disfarçar. Que triste contingência humana! Antes eu pudesse e tu pudesses, (por que não, "Nós pudésemos?") encerrar, sem subterfúgios, sem fingimentos, a realidade. A realidade que nossos olhos viam, e mais do que eles, os nossos corações viam e sentiam.

Nós não eramos deuses! Eramos simplesmente humanos. Miseros mortais, sem outro recurso senão sorrir... E humanamente procuramos sorrir, para tudo encobrir, tudo, inclusive a pura verdade que o nosso coraçõ clamava, palpitando violentamente... E tudo passou. Aquele também fora um momento marcante do limite entre o passado infinito e o infinito futuro, como todos os milhões de momentos que vivemos na nossa longa e curta vida... Tu me compreendes, não é?"

... Quem não compreendeu, é favor não fazer perguntas... porque apenas copiei. — Jyr.

ELECTRA
UNICOS OPERATIVOS JOELMARI CASACASTRO

寶石商 カーザ・カストロ
總領事館、ブラジル探検組合、海外興業會社、各地小學校並に運動團體より御買求めの榮を賜る

菅井製作所
設計及製圖
各種合金鑄物
諸機械製作並に修繕
事務所 聖市パロン・デ・イグアツベッ街九三二
工場 聖市ドントル・トーマス・デ・イグアツベッ街五五
電話 七二七二五

GIZ BRASIL
Escriptorio: Rua d. Quitanda, 78
6.º anj. Tel. 2-2389 C. P. 3223

外國製に優る國產白墨
學校、撞球場、洋服店
で歡迎されて居ります

齒科 小原
モデグスタイルズ
ワキ街堂四郵便局隣
アメントイン
ジャボネリス
製造元即事
菅井兄弟商會
聖市パロン・デ・イグアツベッ街
電話七二七二五

アジア旅館
本泊り飲食事は安くてきれいな
轉國手續迅速に取扱ひます
(聖市グロリア街二九六
電話二四九)

轉向に絶好のチャンス
御希望の證書あり
詳細は左記へ御照會下さい
御希望の條件に應じます
御照會下さい

養蠶家募集
上田平吉
HEKITI UEDA
Chaka Postal 73, Batostel, F. S.
HEKITI UEDA
R. Boa Vista, 127 sala, 410 Tel. 2-6460 S. Paulo

Loja das Machinas
R. Quint. Bocayuva, 501
Teleph. 2-1894
São Paulo

現金出納器、タイプライター
計算器、金庫、アルキーボ、
事務所用家具、裁縫マシン、
其他諸機具多數
▼買交換、値段至廉▲

職業斡旋所
市内外及地方より勉學、轉業等にて出望される方々の爲親切、確實な職業其他の斡旋を致します
御當方内外商社との連絡あり、其の外種々の斡旋も致します

聖市タベンゲール街一九一
職業斡旋所
高橋 幹
電話 二一五七九三番

"VIA RADIOBRAS"
Companhia Radiotelegraphica Brasileira S. A.

Rio: S. Paulo: Santos: Recife:
Av.R. Branco, 77 R. S. Bento, 357 R. 15 de Nov. 86 Av. R. Branco, 162
Tel. 23-2177 Tel. 3-4111 Tel. 7194 Tel. 9291

日本への無線電信・無線電話は
伯日直通のVIA・ラヂオプラス
を御利用下さい!!

日本より伯國への電報もアンテン経由
伯國無線電信株式會社
を御利用なさる様日本へ御推薦下さい

PRODUTOS AGRICOLAS LTDA.
ババサ
農産物の委託販賣には
リオ、サンパウロ、その他
に販賣網を持つ弊社に
是非御用の程願ひ上
げます

農産物賣買
受託販賣
小賣商配給
農産物商會社

Rua Anhangabaú N.º 1095-1103
End. Teleg. "PROAGRO" Telefone-4-7350 S. PAULO

東
斷乎推奨!
絕對に防偽辨を含ませ!

鳳麒麟

CAJA LOVELL
Rua S. Bento, 284
TEL 2-1195

各種流行品
各種贈答用品
カルポル
ボ万クル時賞
ル年クリス
イ年スタ
ラサ筆タル計石